

## ○アンケートまとめ

### 【日本人市民】

#### ◆アンケートより

##### ①外国人市民との関わりについて

- ・地域の店や駅、道ばたで見かける機会が多い。
- ・外国人市民が地域で活躍することやイベントへの参加については、「うれしい」
- ・「過去1年以内に日常生活で困ったことは、ない。」と回答した人が多数である一方、困ったことがあると回答した人は、「言葉が通じない。」、「ゴミ出し方・ルール。」を困り事として挙げている。

##### ②多文化共生の地域づくりについて

- ・安心して暮らせる社会にするには、「外国の文化や宗教、生活習慣の違いの理解を深めることが必要。」、「地域に住む外国人市民に挨拶をするなど日常的な関りを持つ」ことを取り組むべきだと考えている。

#### ◆行政に求めること

- ・日本の生活ルールや習慣、文化の違いの周知
- ・相談体制や各言語に翻訳した情報提供
- ・日本語の学習支援

#### ◆自由記述から（原文のまま記述）

- ・「言葉の問題。日本のルール（特にゴミ問題）日本人市民と外国人市民との交流。」  
➡当意見多数あり。

### 【外国人市民】

#### ◆アンケートより

##### ①外国人市民の現状

- ・製造業で正社員として就労している外国人市民が多い。
- ・在留資格は、「永住者、留学、技能実習」が上位を占めている。
- ・日本での居住歴は、1年未満が多い。

##### ②情報の入手・生活について

- ・情報は、「言語問わずインターネット、友達、勤務先」から得ることが多い。
- ・市からの情報は、郵便での入手を希望する人が多い。
- ・不安に感じていることは、日本人と同様。「税金や保険のことや、お金のこと。」
- ・市が開催するイベントに参加しやすいのは、「週末の午後1時から3時」

【裏面へ】

### ③言語について

- ・過去1年以内に日本語を上手に話せなくて困ったことがあるかについては、「困ったことはない」との回答が一番多かった。
  - ➡日本語の習得が早い子どもに通訳や翻訳をしてもらうためと推測。
- ・次に多かったのは、「病気になったとき」である。
  - ➡「命に関わることであり、日本語の理解に自信がないことから、精神的不安に駆られるため」とも推測。
  - ➡「専門言語の理解に苦しむ。」ことも理由の一つであると思われる。
- ・次いで、市役所、郵便局や銀行、仕事が多かった。
  - ➡これらについても、病気になったときと同様で、専門的な言葉が出てくるためであると推測。
- ・日本語の学習状況：学んだことがあるが8割を占めており、若い年代ほど、多い。
- ・日本語の理解状況：話し手側のスピードがゆっくりであれば、多くの外国人市民は、理解ができ、話すことも可能。ひらがなやカタカナであれば、読み書きが可能との回答が多い。
- ・子どもとの会話は、母語が多い。
- ・イベントに参加したい。

### ④災害について

- ・災害が起きた時のために、1週間分の食料の準備をしている人と特に準備をしていない人が同数であった。
- ・災害が発生した時の情報収集は、友人・知人や母語のメディアが多い。
- ・防災に関するイベントについては、会社や学校でのものは参加しているが、地域で行われるものは、参加が少ない。

### ⑤将来について

- ・将来のために貯金をしている人が約半数を占めていた。

## ◆自由記述から（原文のまま記述）

- ・ルールを守ることは大事。
- ・「こんにちは」、「おはよう」などの簡単な言葉を交わすことから始められると思います。
- ・地域に溶け込みたい。
- ・外国人として、日本語の勉強は、言う間でもなく、日本の文化を理解し、住むところのルールを守ることが大事。
- ・双方の理解大事

【次頁へ】

## 【市内事業所】

### ①雇用状況について

- ・約 70%の事業所が外国人市民を雇用している。
- ・業種としては、「製造業」が多く、次いで「運輸業」が多い。
- ・雇用形態としては、「正社員」が多い。

### ②雇用するうえでの課題など

- ・言語コミュニケーションがとりづらい。
- ・文化、価値観、習慣の違いに戸惑いを感じる。
- ・外国人人材の定着のために、通訳や翻訳などのコミュニケーション支援を行っている事業所もある。
- ・「在留資格に係る手続きの簡素化」を望む事業所が多い中、「日本語の支援」を望む企業も多い。

## ◆自由記述から（原文のまま記述）

- ・独自のコミュニティがあるが、実際に困っていることは、当事者にしか分からない。困っていると感じている人々が意見交換する場等を作ることで、独自のコミュニティができ、地域や職場での課題の抽出ができるのではないか。このような、当人が置かれている状況に合った環境が必要である。

お互いを知ることから始めていくことが重要。

日本で必要となるルールやマナー等を当人たちと一緒に考え、互いに教わり合うことが多文化共生ではないか。